家畜衛生だより　令和７年１２月号

紀北家畜保健衛生所　電話　０７３－４６２－０５００
紀南家畜保健衛生所　電話　０７３９－４７－０９７４
紀南家畜保健衛生所　東牟婁支所　電話　０７３５－５８－１４８１

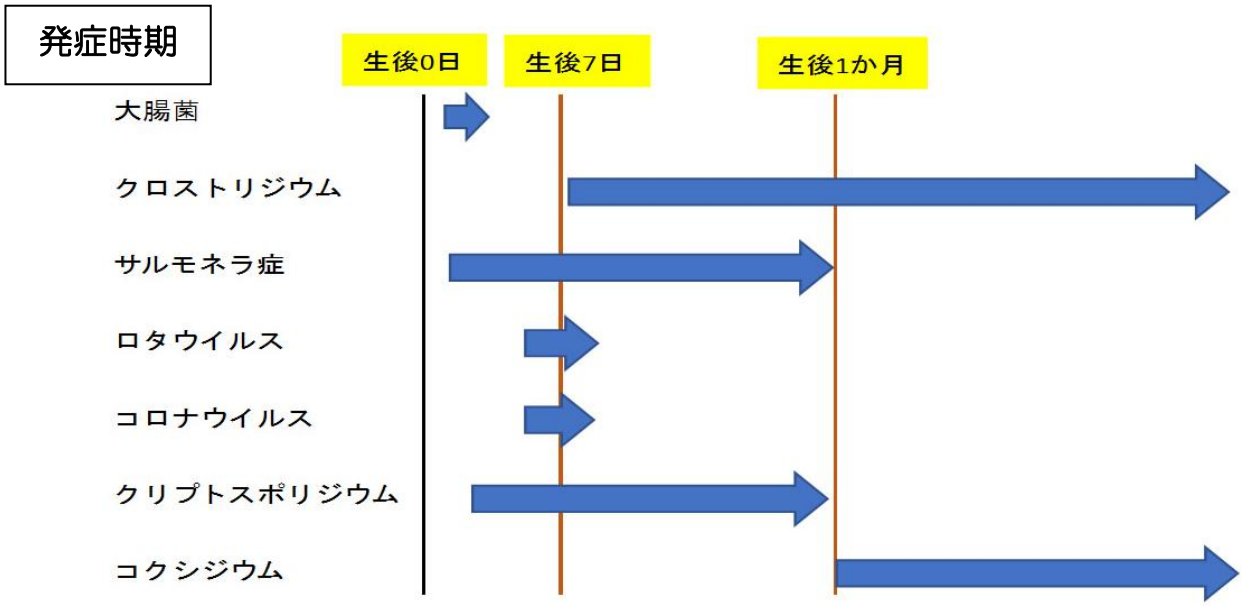
子牛の下痢症について

子牛の下痢は最も一般的に見られる疾病である一方、成長に影響を及ぼし、時には死に至ることがあり、生産性向上を図るために対策は非常に重要です。

〇子牛の下痢の種類と特徴

【感染性】

	ウィルス		細菌		原虫・寄生虫	
	ロタウィルス	コロナウィルス	大腸菌	サルモネラ	クリプトスポリジウム	コクシジウム
便性	水様	水様	泥状～水様	泥状～水様	水様	泥状～水様
色	黄色・乳白色淡黄緑色	乳白色・黄色	灰白色・黄色	黄灰白色	淡黄色淡緑色	赤色
血液混入	なし	あり（重症時）	あり	あり	なし	あり
臭い	異常臭なし	異常臭なし	腐敗酸臭	悪臭・生臭い	異常臭なし	生臭い
発熱	軽度あり	軽度あり	軽度あり	あり	体温低下（重症時）	軽度あり
季節	通年	秋～冬季	通年	通年	冬季	春季
特異症状	脱水・起立困難	脱水・呼吸器症状	混合感染	脱水・削痩起立不能	脱水・衰弱体重減少	食欲不振・元気喪失



【非感染性】

分類			原因
消化不良性下痢症	食餌性	不消化便	不規則給餌・給水による腸のぜん動異常
	脂肪性	白色泥状便	脂肪消化酵素、胆汁分泌不足、細菌の異常増殖
	腐敗性	腐敗臭・暗色泥状便	過剰あるいは不消化タンパク質の摂取、消化酵素の分泌障害
	発酵性	酸臭・淡褐色便	過剰あるいは不消化炭水化物の摂取、消化酵素分泌障害
胃（潰瘍）性下痢症		不消化便	第一胃～四胃の機能的及び器質的障害による内容物の通過時間の変化
神経性下痢症		不消化便	環境及び飼養管理の不適正から来るストレスが迷走神経を刺激し、腸ぜん動亢進や消化酵素分泌異常を引き起こす

〇下痢の予防

【初乳の摂取】

子牛が生まれたら６時間以内に十分な量の初乳を飲ませ、免疫を強化しましょう。泌乳量や免疫成分の不足を補うため必要に応じて初乳製剤を利用しましょう。

【ストレスの緩和】

気象条件の変化に気を付けましょう（寒冷・暑熱ストレス対策）。密飼によるストレスから守りましょう。

【病原微生物の感染の予防】

牛・人・物などによる持込を防ぎましょう（消毒・清掃）。敷料を清潔にしましょう。

【給与飼料の確認】

飼料の変質・変敗に注意しましょう。乳房炎乳・異常乳の給与をやめましょう。

【便の観察】

こまめに便を観察し、下痢の早期発見・早期対応を行いましょう。

気になることや不明な点がありましたら、

所轄の家畜保健衛生所にお問い合わせください。